

# 建設経済常任委員会及び予算常任委員会（第三分科会）

平成28年12月7日（水曜日）午前10時00分開会

## 出席委員（8名）

委員長 櫻田 貴久  
委員 鈴木 伸彦  
委員 君島 一郎  
委員 山本 はるひ

副委員長 齊藤 誠之  
委員 鈴木 紀  
委員 吉成 伸一  
委員 玉野 宏

## 欠席委員（なし）

## 紹介議員（なし）

## 説明のための出席者

産業観光部長 藤田 一彦  
農務畜産課長 久利 生元  
農業振興係長 磯 将央  
農林整備課長 久留 生利美  
林務係長 君島 幹夫  
商工観光課長  
兼勤労青少年  
ホーム所長 八木 沢信憲  
観光係長 金子 春美  
雇用推進室長 君島 一宏  
雇用推進室  
企業立地担当  
主査  
（係長級） 人見 栄作  
都市計画課長 稲見 一美  
都市整備課長  
補佐兼駅周辺  
整備室長 浅賀 保幸

産業観光部  
政策審議監 木下 昭彦  
農務畜産課長  
補佐 池澤 直実  
畜産振興係長 若目 田治之  
農林整備課長  
補佐兼  
農村整備係長 佐藤 正規  
地籍調査係長 伊藤 隆  
商工観光課長  
補佐兼  
商工係長 後藤 明美  
観光振興  
センター所長 高塩 浩幸  
雇用推進室  
農観商工連携  
担当主査  
（係長級） 上野 純宏  
建設部長 君島 勝  
都市整備課長 松本 正彦  
都市整備係長 大野 昭博

住 宅 係 長	伊 藤 良 司	建 築 係 長	加 藤 正 之
駅周辺整備室 副 主 幹	小 野 治 夫	道 路 課 長	大 木 基
道 路 課 長 補 佐 兼 長	鈴 木 隆 行	管 理 係 長	高 根 沢 寿 夫
建 設 係 長			
維 持 係 長	村 木 和 夫	用 地 係 長	広 瀬 美 香 子
河 川 係 長	相 馬 和 男	農 業 委 員 会 長	佐 藤 章
農 業 委 員 会 事 務 局 長 補 佐 兼 農 政 係 長	関 谷 浩 行	農 地 係 長	村 川 克 典
上 下 水 道 部 長	邊 見 修	水 道 課 長	釣 巻 正 己
水道課長補佐 兼 黒 磯 ・ 塩 原 事 業 所 長	関 谷 逸 夫	総 務 係 長	宇 賀 神 晶 子
営 業 係 長	佐 藤 富 弘	建 設 係 長	斉 藤 哲 也
施設管理係長	高 野 茂	下 水 道 課 長	黄 木 伸 一
下 水 道 課 長 補 佐 兼 長	室 井 正 幸	普 及 係 長	道 音 正 夫
施 設 係 長			
管 理 係 長	和 氣 広 美	下 水 道 建 設 係 長	武 藤 泰 治
生 活 環 境 部 長	山 田 隆	環 境 対 策 課 長	相 馬 勇
環境対策課長 補 佐 兼 物 資 対 策 室 長	河 合 浩	公 害 対 策 係 長	渡 邊 静 雄

出席議会事務局職員

書 記 磯 昭 弘

議事日程

- 1．開 会
- 2．委員長挨拶
- 3．審査事項

〔上下水道部〕

・上下水道部長挨拶

〔水道課〕

・議案第 96号 那須塩原市水道事業の設置等に関する条例の一部改正について

〔下水道課〕

・議案第100号 大田原市から北那須流域関連那須塩原市公共下水道への区域外流入について  
予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

・議案第80号 平成28年度那須塩原市下水道事業特別会計補正予算（第3号）

〔建設部〕

・建設部長挨拶

〔都市整備課〕

・議案第97号 公の施設の指定管理者の指定について

予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

〔道路課〕

予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

〔農業委員会事務局〕

・議案第86号 那須塩原市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定  
について

・議案第90号 那須塩原市証人等の実費弁償に関する条例の一部改正について

〔産業観光部〕

・産業観光部長挨拶

〔農務畜産課〕

予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

〔農林整備課〕

予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

〔商工観光課〕

予算常任委員会（第三分科会）

・議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）

〔生活環境部〕

・その他

4. 散 会

開会 午前１０時００分

#### 開会及び開議の宣告

櫻田委員長 皆さん、おはようございます。

本日は、12月定例会の常任委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

さて、本定例会で、当常任委員会が審査すべき案件は、条例の制定案件１件、一部改正案件２件、その他の案件２件と、請願１件及び陳情１件であります。

なお、予算常任委員会付託案件のうち、当分科会で審査すべき補正予算案件２件につきましては、関係所管課のところで、随時、予算常任委員会第３分科会へ切りかえて審査を行います。

各委員におかれましては、慎重なる審査をお願いいたすとともに、円滑な進行にご協力をくださるようお願い申し上げます。

磯事務局書記 ありがとうございます。

それでは、３番の審査事項に入ります。

ここからの議事進行は委員長にお願いいたします。

櫻田委員長 それでは、ただいまから審査に入ります。

次第により順次進めてまいります。

#### 水道課の審査

櫻田委員長 初めに、遠見上下水道部長からご挨拶をいただきたいと思います。

部長。

遠見上下水道部長 （挨拶。）

櫻田委員長 ありがとうございました。

#### 議案第９６号の説明、質疑、討

#### 論、採決

櫻田委員長 それでは、水道課の審査に入ります。

議案第96号 那須塩原市水道事業の設置等に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

釣巻水道課長 （議案第96号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

それでは、各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。何かございますか。

鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 今、説明の中で、新湯地区と日の出地域ということで、それぞれで給水量についてはどのくらいの量になるのか。新湯地区ですとこのくらいと、日の出だとこのくらいというような給水量になると思われますが、その数字はどのくらいになるのか。

櫻田委員長 鈴木紀委員に申し上げます。

全体的なやつがここに出ているんですけども、それピンポイントで聞いてよろしいんですか。ちょっと議第の範囲を超えているのではないかと思うんですが、どうでしょうか。

答えられますか。

答弁を求めます。

課長。

釣巻水道課長 最大給水量につきましては、全体の給水人口から出しておりますので、部分的にこの地域は何㎡というふうな、もちろん算定の根拠の中にはそういうものはあるんですけども、今ちょっと資料は持ち合わせていないんですけども、全体の給水人口で、先ほど言いました厚生労働省が定める基準に基づいて算定しておりますので、ちょっと今ここでその２つの地区についての

給水量については資料が。全体の量で……

櫻田委員長 課長。

それならば、全ての人のレターケースに入れておいてください。その資料がないんでしょう、今、持ち合わせは。

〔「あります」と言う人あり〕

櫻田委員長 とりあえず説明した後に、それをコピーして、みんなのレターケースに入れておいてやってください。

係長、説明してください。

係長。

宇賀神総務係長 日の出が1日約38 $\text{m}^3$ 、新湯地区に関しては1日77 $\text{m}^3$ で見えておりますが、こちらに関しては、レターケースのほうに詳しい資料のほうを提出したいと思います。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

君島委員。

君島委員 これ4項の1日最大給水量というものは、厚生労働省のほうの基準で算出するんだと思うんですけども、どういう算出の仕方をするんですか。

聞きたかったのは、単純にこれを給水人口等で割ると数字が違うんです。ですから、例えば人口が幾らから幾らまでのときには、1日1人当たり零点何tとかっていう、そういう出し方の基準があって出すのかどうか、その辺をちょっと教えてもらいたい。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

釣巻水道課長 1日最大給水量の算定につきましては、給水人口から算定される生活用水量、それと営業用水量などを加えて、有収率や負荷率で割った数字としております。ここに出ております数字につきましては、平成29年が最大というふうなことで、この数字、5万400 $\text{m}^3$ が出たものでござ

います。

櫻田委員長 課長、これも数式が出ているんですよね。算出の式が出ているんですよね。それをみんなのレターケースに入れておいてやってください。

君島委員、今ので大丈夫ですか。

君島委員 大丈夫です。

櫻田委員長 それをとりあえず、後で入れておいてもらえますか。

そのほか何かございますか。

山本委員。

山本委員 細かいことなんですけど、先ほど29年の2月に厚生労働省に申請をする予定だということだったんですが、4月1日から施行ということは、これは申請をすればほとんどすぐ通るということなんです。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

釣巻水道課長 予定としては、2月に申請をしまして、3月中に認可がありするというふうなことで協議を行っておるものでございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 本当に小さなことなんですけど、この67,338と5万400の表示の仕方の違いというのは、条例上こうしろとなったんでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

部長。

遠見上下水道部長 私どもも、最初は旧人口のように表示ということで、例規のほうを出させていたいただいたということです。

それらを包括管理します行政系のほうから、こういった条例の形式というのは、ここに書いてあるように、11万4,200、それから5万400というのが普通というか、そのようなことと聞いておりま

して、このようなことで表現をさせてもらっているというところでございます。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 じゃ、本来条例はこういう漢字表記にするのが通例だという理解でいいわけですね。

櫻田委員長 部長。

遠見上下水道部長 そのとおり聞いています。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 それではないようですので、質疑、ご意見等を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前１０時１８分

再開 午前１０時３０分

櫻田委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議はございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第96号 那須塩原市水道事業の設置等に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第96号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

部長。

遠見上下水道部長 特にございません。すみません。

櫻田委員長 それでは、委員の皆さんから何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 （日の出地区の給水区域編入について）

櫻田委員長 そのほか委員の皆さんから何かございますか。

山本委員。

山本委員 （日の出地区の給水区域編入後の引き込みのできる時期について）

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

君島委員。

君島委員 （日の出地区の給水区域編入後の給水管布設に関する考え方について）

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 （給水区域に編入される日の出地区の状況について）

櫻田委員長 そのほかございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それでは、ここで進行を副委員長に変わります。

齊藤副委員長 委員長。

櫻田委員長 （議会報告会で意見のあった板室地区の水の件への対応状況について）

齊藤副委員長 進行を委員長に戻します。

櫻田委員長 それでは、そのほかございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 そのほかないようですので、水道課の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため、暫時休憩といたします。

休憩 午前１０時４６分

再開 午前１０時５５分

櫻田委員長 休憩前に引き続き、会議を開きます。

#### 下水道課の審査

櫻田委員長 それでは、下水道課の審査に入ります。

議案第１００号の説明、質疑、  
討論、採決

櫻田委員長 議案第100号 大田原市から北那須流域関連那須塩原市公共下水道への区域外流入についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

黄木下水道課長 （議案第100号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 この資料を見ますと、計画道路が入っています。これは変な話、10年以内にできるということ等の問題になるんじゃないかと思うんですけども、計画道路の予定はどうなっているんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 当該計画道路につきましては、大田原市側でつくっているものでございまして、今回、事前に協議をしたんですけども、そこで確認したところ、当面は予定は言葉は悪いですけどもまるでないという話ですので、予定はありますけれども、しばらくは整備されないということです。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 あともう1点なんですけれども、この建築主さんの敷地面積はいかほどでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 こちらの把握している範囲では、498㎡となっております。

櫻田委員長 そのほかございますか。

ほかに質疑、ご意見等はございませんか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それではないので、質疑、ご意見等を終了したいと思います、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。

休憩 午前１０時５８分

再開 午前１０時５９分

櫻田委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第100号 大田原市から北那須流域関連那須塩原市公共下水道への区域外流入については、原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第100号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第72号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 これより、予算常任委員会第3分科会に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

黄木下水道課長 （議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 下水道会計の特別会計では、この500万は何に使うんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 次の説明で内容をご説明したいと思えますけれども。

櫻田委員長 鈴木委員。

鈴木（伸）委員 私の考えとしては、ここで繰り出しが決定してしまう前に、やはり受けたほうが何に使うか目的がはっきりしていたほうが、これに対して意見を言いやすいです。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 当該は、下水道事業特別会計におきましては、今回消費税等の納付額の増、それから所要の工事の調整で、若干の予算の増がございました。それによりまして、収支に不均衡が生じたため、繰出金を増額して調整するというのが今回この一般会計繰出金の目的でございます。

櫻田委員長 そのほかございますか。

ほかに質疑、ご意見等はございませんか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見等を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。

休憩 午前１１時０３分

再開 午前１１時０４分

櫻田委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。



これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は、原案のとおり可決すべきものとするに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

#### 議案第80号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 次に、議案第80号 平成28年度那須塩原市下水道事業特別会計補正予算（第3号）を議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

黄木下水道課長 （議案第80号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

それでは、各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 記憶が定かではないんですが、予備費というのは当然っていたと思うんです。300万くらいだったと思うんですけれども、これはその予備費を超えているということですよ、足りないということは。緊急性があってこれはや

る事業ですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 今のは消費税も含めてということですよ。

鈴木（伸）委員 そうです。

黄木下水道課長 予備費を流用というのも確かにあると思いますけれども、時間に余裕がある場合には、正式に議会で予算を通すというのが筋だと思っております。今回は予備費を使うほどの緊急性は感じておりませんでした。

櫻田委員長 ほかに何かございますか。

山本委員。

山本委員 最初の18ページの歳出のところで、水処理センターの工事委託費が、入札の金額より大幅に下回ったという説明だったんですが、その理由を聞かせてください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 明確な理由は応札の結果ということなんですけれども、この入札につきましては、不調、不調、で落札という、3回目の入札になりました。その際、とある業者の方が頑張って応じてくれたという状況だと理解しております。

以上です。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 不調、不調ということは、思っていたより高いものしか出なくて決まらなかったということよろしいんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 そのとおりです。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 その水道の工事というのがどういうものかというのは、余りよくわからないんですけれ

ども、すごくどこかが下げてくださったということで、工事そのものの信頼性に影響はないんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 そのようなことはないと思っております。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 ないからここに出てきているとは思いますが、計算をして出しているもの、先ほどの言葉だと大きく下回ったというのは、きっと何かないかということはないと思うんですが、やっぱり納得できないんですけれども、

櫻田委員長 予定価格というか、希望価格を大きく下回ったと、そういうことに明確に答弁してください。

課長。

黄木下水道課長 確かに当初予算と比較して大きく下回ったという今回の状況はあります。あと安くなったというのは、今回特殊機械を使っている工事でございます、その機械のところの頑張り方というんですか、によってでございまして、というふうに聞いております。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 工事の入札で、最初に計算をしているわけですね。設計をしたもので、最初の2回は不調に終わったということは、計算よりも高く出てきているのに、今度は下回るほど安く決まったということに、本当にからくりはないんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

黄木下水道課長 業者が入れかわった結果ですので、その業者が多分得意とする分野であるとか、その機械を入手しやすいとかということが、想定できます。すみません。

山本委員 ここでやめておきます。

櫻田委員長 副委員長。

齊藤副委員長 今の関連なんです、たとえばその事業を発注にするに当たって、下限は設けなかったんでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

補佐。

室井下水道課長補佐 今回の事業につきましては、下限値がありましたが、下限値の中に入っているということで、入札を応じた会社のほうの調査を行って、大丈夫かどうかというのをやっています。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それではないので、質疑、ご意見等を終了したいと思います、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。

休憩 午前11時14分

再開 午前11時19分

櫻田委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないので、討論を終結したいと思います、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結

いたします。

これより採決いたします。

議案第80号 平成28年度那須塩原市下水道事業特別会計補正予算(第3号)は、原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第80号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

〔「特にございません」と言う人あり〕

櫻田委員長 それでは、委員の皆さんから何かございますか。

山本委員。

山本委員 (塩原水処理センターに係る更新工事の内容について)

櫻田委員長 それではそのほか何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、下水道課の審査を終了いたします。

これで上下水道部の今定例会における審査は終了となりますが、上下水道部全体として何かございますか。

〔「特にございません」と言う人あり〕

櫻田委員長 なければ、以上で上下水道部の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため、暫時休憩といたします。

休憩 午前11時21分

再開 午前11時23分

櫻田委員長 それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。

都市整備課の審査

櫻田委員長 初めに、君島建設部長からご挨拶をいただきたいと思います。

部長。

君島建設部長 (挨拶。)

櫻田委員長 ありがとうございます。

それでは、都市整備課の審査に入ります。

議案第97号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 議案第97号 公の施設の指定管理者の指定についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

松本都市整備課長 (議案第97号について説明。)

櫻田委員長 説明が終わりました。各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木(伸)委員 資料の88ページ、業務選定結果の2番で、Aさんとシルバーセンターが逆転はしているわけなんですけれども、(2)、具体的にどういう差があったのか。本当は聞きたいのは、経営能力なんかも大事だし、経費も大事だと思うんですけども、やっぱり住民サービス、上手に使

ってほしいというところで、その辺のあたり、本当にどういう評価をしたのかということを聞きたいので、具体的な違いを説明いただけますか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

大野都市整備係長 選定結果の1、施設運営管理能力、(2)管理運営に係る人的体制等という形で、シルバー人材センター14、A、12ということで、2点差がついてございます。この2点差なんです、審査視点、2の住民サービスの向上、(2)利用者に対するサービスの向上ということで、シルバー人材センター9点、A、11点ということで、2点の差がついてございます。

この2点の差ですが、まず、A社についてなんです、シルバー人材センターより2点プラスという形なんです、利用者の満足度を向上させる方策がとられているかという審査視点、あと、施設の質を維持向上させるものかという視点、あと、施設の利用者をふやす実効的な方策がとられているかの視点で、それぞれ利用者の満足度を向上させる方策等がとられているかについては、A社のほうが2点多くプラスされていると。

こちらについては、既存ストックを活用した具体的な提案があったということ、あと、フェイスブックとか、こういうものを活用して実施をする、また、イベント等の発信もしていくということ、あとお花見の情報とかも随時入れていく、こういうことに関しましてA社のほうがプラスされたという形になります。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

山本委員。

山本委員 今の同じところなんです、今ほどの説明が余り、それを聞いていると、公園の業務の内容で、許可に関することとか、あるいは公園の使い方というようなことで、市民サービス、公園

なので住民サービスが一番大切がところだと思うんですけども、少なくとも選定結果の表を見る限り、市のほうは住民サービスの向上ではなくてお金のことで決めたと思えないんですけども、そのところを明確に説明をお願いします。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 この採点の結果から見られると、今委員おっしゃられるとおり、9点と11点、また12点という中での点数で、この部分、2の住民サービスの向上ではA社のほうが高かったというのは現実であります。

ただ、こちら、選定の考え方等でも説明しましたとおり、ある意味、今委員おっしゃられるとおり、お金の部分も加点として加味しておりますので、その部分に関しましては委員おっしゃるとおりと考えます。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 そのお金の部分なんです、きのうの質疑の中で、30点が満点だというお話だったんですね。先ほどの中に30点というのがありましたよね、キャリアコーチさん。ここの場合、10点と6点というんですが、本当はきのうこのところを明確に答えていただきたかったんですが、お答えなかったんで、30点が満点で、ここで10点と6点というのが何がどう違ったのか、もし差し支えなければ、金額を教えてください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちら、まず、市の提案上限額は、年当たりになりますと6,765万7,000円となっております。シルバーさんの提案額は6,591万9,000円となっております。また、A社におきましては6,660万円となっております。

こちら、管理費の削減におきましては、削減期

待額というのを設けまして、市の提案額引く各団体の提案額割る削減期待額というのをパーセントで出しまして、掛ける配点30点という形でやっております。

以上です。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 ちょっと電卓がなくて、頭の計算なのでちょっと正確かどうか分からないんですが、6,759万7,000円を示している中で、シルバー人材が6,591万9,000円とおっしゃいましたね。A社のほうが6,660万円とおっしゃいましたよね。その差って100万円ぐらいですよ。年間で差が100万円ぐらいだと思うんですね。

6,700万円に対して差が100万円というのは、私の感覚からすると、余り大きい金額だとは思わないんですけども、その差が10点と6点、さっきの計算の仕方はちょっと私、頭の中でうまくわからないんですが、そういうふうに出るということとは、やはりお金がちょっとでも安ければ安いほうがいいという考えなんですよ。確認です。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 どちらに重きを置くかということ、配点といたしましては、まず、70点、施設管理運営能力及び住民サービスの向上が7割になっておると思っています。プラス3割の部分が加点としてなっておりますので、重きを置いているのはやはり1番、2番というふうに、こちらは考えております。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 考えておりますはわかるんですが、いいんです。考えていたとしても、私はこの表が出てきているわけですので、この表の結果から見ると、30点の分で結局ひっくり返っているわけですよ。

お金を聞きましたら、例えば6,765万円に対して片方が5,000万円だった、片方が6,000万円だったとかという差だったら、もう少し納得できたんですが、差はほとんどないですよ。計算をするに出てくるから、10と6になると思うんですが、もともとそういう計算の仕方になっているのは決まりなんでしょうけれども、ですから、市のほうはお金が第一なんですよと聞いているんです。としか思えないんですよ、これで見ると。

櫻田委員長 答弁を求めます。

部長。

君島建設部長 結果、小計のところでは1点差が最後の合計点数でひっくり返っているということなので、金額での結果になるでしょうという話かと思っていますが、要するに、最初から提案を求める際には、金額も含めた総合点数の高いほうが選定者に選ばれますよという話を出しての上です。

その際に、管理経費の削減については満点で30点ですよと、これも出しております。ですので、例えば、どうしても自分のところで企業努力をして、金額を安くして出すということで出してもらえれば、30点まではプラスになります。

単純に言えば、A社は小計点数で1点上回っていましたが、管理経費の削減のところでは、結果6点になる分の削減しかできなかったということでもあります。

確かに、ここでひっくり返っているので、お金での結果になるでしょうといえば、最終的には管理経費の削減を含めた高いほうが合格になりますよと言っておりますので、それはもともと指定管理にする際の事項として出しておりますので、それはお互いに納得した上で出してもらっていますし、うちのほうもそれを正当に評価した結果だということふうに考えております。

以上です。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 69万円の差だと思うんですね。それぐらいの差で、もともとが6,765万円からすると、1%ぐらいの差だと思うんですね。それが1年間で。というふうに考えますと、これだけの37の施設の管理からすると、私からするとすごく差は少ないんだろうなというふうな感覚を持ちます。そういう中で、ここで言うことではないかもしれないのでちょっとあれなんですけれども、そういう中で、上の部分、70点の部分で、しっかりと住民サービスの向上が差がある、先ほど聞いておりましたら、SNSで出すとかいうのは、住民からしたらとてもやっぱり聞きたいことの1つであって、今、シルバー人材は逆に余りそういうことはやっていないと思うので、そういうところの評価を市の方たちは住民サービスを重く思っていないとしか考えられない結果なので、そこのところを例えば市が提案したものより下回っていれば、それでオーケーというような考え方はしないんですか。改めて。

両方下がっているわけですから、提案しているものより下がっていますよね。下がっている部分が1%ぐらいの差しかないものをここで点数が4点も変わるということは納得ができないんです。櫻田委員長 部長。

君島建設部長 これは繰り返しになってしまうかもしれませんが、小計の点数もトータルをしまして1点差しかないということでもあります。これは全て小計の中で1番、2番を合計して42点以上とっていれば合格ですよというふうになっておりまして、これについてはシルバー人材センターもA社のほうも合格になっております。

そこではトータルすると、1点差しかなかったという中で、最終的な選定結果については、金額についてこれが全体の30%を占めますよという中

で、そこでは4点差がついて、最終的な合計点数が62点と59点になったということでもあります、この結果が全ての評価の結果であるというふうなことであります。

以上です。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 きのもう私も質疑をしたんですけども、3の管理経費の削減の削減予定額というのは設定されているんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

大野都市整備係長 削減期待額という形で、削減期待額については、黒磯公園ほか37施設においては、約8%の削減額を削減期待額として設定しております。

鳥野目河川公園については、削減額については約5%の削減期待額という形で設定をしております。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 きのもう説明いただいた中で、先ほどもありましたけれども、満点が30点、ただし満点でも零点でも、それは零点だからといって全く削減していないというわけではないですよという副市長の答弁があったんですね。私なんか考えるとゼロというのは全く削減されていない数字が出てきて、そういう評価になっているのかなと思ったんですが、そうすると、零点から30点の削減額の評価というのは、それぞれ1点ずつ幅があって設定されているという理解でいいですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちら、先ほど計算式をお示ししたとおり、うちのほうの提案上限額、例えば黒磯公園ほか37施設におきましては、提案上限額が6,765万7,000円になっております。年間でです

ね。それに対して提案額、シルバー人材センターは6,591万9,000円、これを引いた金額、これに対して今説明があった削減期待額を分母に持ってきて、パーセントというか小数点の数字が出ると思います。掛ける30点という形になります。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 掛ける30のいきなり30というけれども、じゃ30は根拠はという話。

櫻田委員長 課長。

松本都市整備課長 配点です。

今回の指定管理者の配点におきまして、先ほど言いましたように、まず、1番、2番では70点の配点にしております。3番、管理経費の削減に関しましては、加点として30点という形の配点にしております。その30点の中で、それに対して削減率を出すということなんですけれども。期待額に対して。例えば、今回、黒磯公園ほか37都市公園の場合は、8%というのが541万2,560円という金額になります。削減期待額がです。シルバー人材センターは削減額は173万8,000円となりまして、先ほど言ったそれを541万2,560円で割るとパーセントが出ます。小数点のある数字が出ますので、掛ける30になると、細かくいいますと、9.63という数字になります。

櫻田委員長 課長、数式とその数が公開であるのであれば、そここのところをレターケースに入れておいてください。この場で聞いたってわからないよ。だから、大丈夫ですよ、課長。それは公開は大丈夫でしょう。数式は大丈夫でしょう。とりあえず、可能な限りレターケースに、ここで今聞いたってわからないから。

吉成委員。

吉成委員 確認したいんですが、2社、3社という場合には、当然競い合うわけですけども、そうじゃなくて、単独がありますよね。なおかつ単

独であって、3の管理経費の削減という部分がゼロとなった場合に、ほかないんですから、ほかの手を挙げているところはないので、このゼロはもうちょっと工夫できないのか。削減できないのか、というような申し入れはしないんですか。選定前に。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 あくまでもこの選定前は応募団体の書類の中で提案額も求めますので、それを1社だからといってそれを個別に金額の交渉というのはできないです。

ただ、今回、こちら選定いただいた中で、今度議決いただければ、協定を結ぶようになります。協定書の中での協議というのは出てくるかと思えます。

以上です。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 協定書を結ぶ際の協議の中で、そういう提案をすることは可能だという理解でいいわけですか。今の説明からいくと。

櫻田委員長 課長。

松本都市整備課長 指定管理者におきましては、選定いただいた結果をもちまして、今度この選定団体と協定書の締結という運びになりますので、そういった協議は出てくるかと思えます。相手があつてのことだと思いますけれども。詳細な業務内容等も含めての協定になりますので、その辺の協議は出てきます。

以上です。

櫻田委員長 答弁になっていないよ。

あと、正直な話、これ、最終的にはそこを都市整備で決めるんでしょう。契約検査課は確認だけでしょ。出てきたところをAかBが決めるというのはどこなんですか。その辺がわかっているか

わかっていないかで全然答弁は違う。

課長。

松本都市整備課長 まずはこちら、指定管理者の制度については企画部で行っております。また、この選定の最終的な庁内の決定機関は、きのうの答弁でありましたように、副市長を頭とします指定管理者選定委員会の中で都市整備課に限らずほかの施設も含めて、そちらのほうで最終的な結果をいただきます。

以上です。

櫻田委員長 鈴木（伸）委員。

鈴木（伸）委員 ちょっとこちらで話していて、聞き忘れかもしれませんが、ちょっともう一度確認させてください。

92ページの先ほどの4の選定結果の3の経費削減のところのゼロというのは、相手の業者さんは数字はわかっているんですか。わかっていないんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちら募集要項に書いておまして、提案上限額は公表しております。

櫻田委員長 鈴木（伸）委員。

鈴木（伸）委員 ということは、競争相手がいないければもう満額で出してもとれるということは前提だと考えてよろしいですか。そういうことになりますよね。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 競争相手がいないかどうかというのは結果になってしまうかと思うんですけれども、いなければ結果的にはそういうこともあり得るかと思います。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 今のはわかりました。

あと90ページなんですけれども、公園ですよ。品質管理ということでちょっとお話を伺いたいですけれども、公園というのは、例えば土木のコンクリート製品だと出来高というのがある程度基準があって、高さとか幅とか大きさとか、わかるんですけれども、公園だと草刈りの面積とか、それから木の剪定なんかも入ってくると思うんですよ。住民サービスとしてはきれいな公園であってほしいわけなんですけれども、これをきちんとやらないで、年に3回も4回も、例えば芝刈り単独で見たときに、夏なんか毎日刈る、そうすると、ゴルフ練習場みたいにきれいになるかもしれないし年に1回だと2回だのとすればぼうぼうで済んじゃうんですけれども、そうすると人件費が違いますよね。A社、B社と考えたときに、その辺の違いというのは、はっきり同じような水準で維持管理できる条件というのはここで理解できているのでしょうか。それはどういう形で理解していると判断できるのでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちらにおきましては、指定管理者を募集する際に募集要項とあわせて、指定管理業務仕様書というのを提示しておまして、そこに今おっしゃられました細かい芝刈りの回数とか剪定の回数とか、例えば公園の話ですと、38の公園それぞれにおきまして業務を細かく提示しております。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 じゃ、再度確認ですけれども、そうすると、管理経費削減ということだと、A社とB社でも、当然同じように木1本にしても同じような樹勢であったり、芝にしたら同じような高さでいつも管理されているとか、それは間違いなく管理できていて、それは誰がどういう体制で管



理をするという仕組みになっているか、ちょっと教えてください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちらにおきまして、指定管理者のほうから毎月報告を受けます。また、その都度、状況に応じて都市整備課のほうで公園担当部分で現地確認等もしております。

以上です。

櫻田委員長 玉野委員。

玉野委員 期待額 8 % というものは、ここまで落とせる腹案というんでしょうか。 8 % は業者は知っているわけですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 削減期待額に関しましては、公表しておりません。

櫻田委員長 その他何かございますか。

山本委員。

山本委員 再三すみません、市が指定管理者を指定することの指定管理料を提案額を出しているのにもかかわらず、削減を期待しているというものを持っているということは、提案額が正しくないということなんですか。

櫻田委員長 山本委員に申し上げます。

議題の範囲を超えていると思うので、その他何かでやってくれますか。

山本委員 わかりました。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

玉野委員。

玉野委員 8 % を期待しているということは、それでやれるということだと思っているわけですね。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちらにおきましては、人件

費また、団体の経費等で、今までの実績等を勘案した計算の結果が 8 %、金額で出たところ、その金額を直すと 8 % という結果になっておりまして、そこまでは対応できるというような算定をしたところであります。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。

休憩 午後 零時 0 2 分

再開 午後 零時 5 8 分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

なお、傍聴者がいますので、議会基本条例第 7 条により議会の会議は公開を原則としております。当然任委員会の傍聴希望がありましたので、委員会条例第 17 条及び先例に基づき、これを許可いたします。

それでは、これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第 97 号 公の施設の指定管理の指定につい

ては原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第97号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第72号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 これより予算常任委員会（第三分科会）に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明を求めます。

課長。

松本都市整備課長（議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

それでは、各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

山本委員。

山本委員 8ページの下の市営住宅の管理のことなんですが、これ、先ほどの指定管理の中の説明で、具体的に東陽宅建にというふうに書いてあったんですけども、その回線とか通信とかは市と東陽宅建でつなぐということの費用でよろしいんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 今、委員おっしゃられたとおり、東陽宅建ではなく不動産業共同組合と東陽宅建の共同事業体になりますけれども、そちらが事務所を構えることになっておりますので、そちらと市をつなぐ回線設置、また通信料となっております。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 これ、来年3月までの補正になっているんですが、来年度になりますと、その後、どの部分がかかってくるんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

伊藤住宅係長 基本的に、来年度以降かかってくるものにつきましては、まず、通信運搬費の中の指定管理者に行く分としましては、公営住宅システムネットワーク通信費というものの、こちらが2回線分、市から事務所に行く分と事業所から市に来る分という形で2回線あるんですが、1回線分につきましては指定管理者のほうで負担、あとの残り委託料、システムの保守ですね。こちらとハードウェアのリース料、こちらは来年度以降も発生してくるということでございます。

以上です。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 確認ですが、今、山本委員が質疑された上のまちづくり事業費の例的那須塩原駅東口バリアフリー化のエレベーター設置の件なんですが、9月に説明を受けて、今回も質疑が出されて、実際には28年度、29年度の債務負担行為になっていたのは29年度での事業になるという説明だったわけですけども、これがずれ込むということはもうないという理解でいいですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 こちら、今回は実施設計業務におきまして債務負担行為となっております、今この補正予算づけ、また庁内決定等うけましたら、前回説明させていただいたとおり1月にJRと協定を結びまして、協定を結んだ後、すぐに実施設計業務に入ります。こちらが28年度、29年度

で、今の予定としましては29年12月までには設計が終わるというふうに考えております。

引き続き、工事のほうの協定、施工協定に入ります。こちらが30年度当初に協定を結びたい、工事にかかわる協定を結び、設置工事のほうは30年度、31年度2カ年という予定であります。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 9月の説明で、J Rの対応というものに対する内容について、我々説明受けたわけですが、そういう説明からすると、1月に不測の事態が起こるなんていうことも全くゼロではないような気がしたんですね。そういうことがあったものですから、これはもう間違いなく、今、課長の説明どおり今後は進んでいくということであるらしいわけですね。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 おっしゃれるとおり、確かに今回の協定を結ぶまでにはいろいろ事前協議という中ではすごい日数がかかったのは事実であります。もう本協定に入りましたので、これからはそんなにおくれることなく、進められると市側としては考えております。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

鈴木紀委員。

鈴木(紀)委員 8ページの5項2目で、新規で先ほど言った市営住宅のことですけれども、一番下の指定管理者導入にかかわる公営住宅システム機器という24万6,000円の内訳ですけれども、パソコンとかプリンターとかというふうなためになるのかなと思うんですが、ちょっと詳細をお聞かせください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

伊藤住宅係長 委員のおっしゃるとおり、パソコ

ン機器とプリンター、あとそれにかかわるいろんなパソコンにかかわる機器類のリースということでございます。

櫻田委員長 鈴木(紀)委員。

鈴木(紀)委員 それについてはわかりました。

その上のシステム機器ソフトウェア保守、ネットワーク設定については、詳細はどういったものかお聞かせください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

伊藤住宅係長 まず、システムネットワーク設定業務委託、こちらのほうにつきましては、今現在、市役所内にあるサーバーという形でパソコンを集中的に情報集積というところがあるんですが、こちらに仮想サーバーといいまして、新たな市営住宅のシステム専用のサーバー機といったものを設置します。そのための設置の業務委託の費用でございます。

あと、そのほかの保守なんですが、まず、システムのハード保守につきましては、機械、パソコンの本体とかこちらのほうの保守、保守の内容としましては、今利用ができるような指導とか緊急時の対応とか、こういったものの保守の内容でございます。

あとその下のオラクル等システム保守というのがあるんですが、こちらにつきましては、ソフトウェアの名称がオラクルといいまして、こちらのほうの保守の業務という形になっております。

以上でございます。

櫻田委員長 鈴木(紀)委員。

鈴木(紀)委員 その中で、このネットワークをつくる中身的には、個人情報的なものは入ってくるのかどうなのか、それによってはセキュリティの問題もかわってくるのかなと思うんですが、そのところだけ、どういう形になっているのか

お聞かせください。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

伊藤住宅係長 委員ご指摘のとおり、個人情報、マイナンバーといったものが入ってまいります。そのほか入居者の収入の状況とか、こういったものが入ってまいります。

こちらのほうのセキュリティーなのですが、こちらのほうのサーバー機、今現在市が使っています情報系端末、基幹系端末というのがあるんですが、こちらのほうのサーバー機と一体となっておりまして、あわせた形でセキュリティー対策というものは行ってまいります。そのため、問題はないうというふうな認識ではあります。

以上です。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

副委員長。

齊藤副委員長 債務負担行為の市営住宅管理運営の中なんですけど以前、質問したんですが、30万円までの物品費の交換に関しては指定管理者のほうで修繕するというお話を聞いたことがあるんですが、それも含めての額ということでよろしいでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

松本都市整備課長 委員おっしゃるとおり、30万円までの修繕料に関しましては、今回の指定管理料の中で指定管理者が行うものとなっております。

櫻田委員長 それでは、ほかにございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時18分

再開 午後 1時19分

櫻田委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は原案のとおり可決すべきものとするに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

課長。

松本都市整備課長 （（仮称）まちなか交流センター整備事業の進捗状況について）

櫻田委員長 その他何かありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 それでは、委員の皆さんから何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 それでは、そのほかないようですので、都市整備課の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため暫時休憩といたします。

休憩 午後 1時28分

再開 午後 1時29分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

#### 道路課の審査

櫻田委員長 それでは、道路課の審査に入ります。

#### 議案第72号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 これより予算常任委員会（第三分科会）に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明をお願いします。

課長。

大木道路課長 （議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。何かございませんか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 8ページの2001事業なんですけ

れども、当初は道路用地、下永田274号線それから石林を予定していたと思うんですよね。予算をとっていたわけですから、その後、物件移転補償でその下のほう、逆に予算をつかえたということなんですけれども、予定していたところ減額になって、こっちは後から予算つけたという言い方なんですけれども、その辺の経緯をもうちょっと詳しく知りたいんですが。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 まず、用地交渉において、いわゆる用地費と補償費については、担当課のほうとしてはセットということで考えております。つまり、1軒のうちで用地費だけ先に契約をして、終わらせて、その後、補償ということは、上に物件があるのは一体なもので、交渉といたしますか、契約自体は1つだということで、全体的な用地費と工事補償費の組み合わせの中で、どの部分、どのうちをいたしますか、ご協力をいただいて移転を補償するかということを決めての計画です。

今回については、ちょっと個人名は差し控えたと思うんですけれども、個人情報ありますから、石林二つ室線の地権者から建物について、早期補償の要求があった。つまり、補償については、その相手方の生活設計とかがかなりかかわってくるので、できる限り、担当課、道路課としましては、意向を踏まえた形の交渉をしたいということで、ここを何としても優先して補償したいということで、補償費をふやしたと。その分、どこからお金を持ってこなくちゃならないので、用地費といいですか、土地購入費のほうを削ったと、こういうことになります。

以上でございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 ７ページの一番下の道路除雪対策事業費ということで、ホイルローダー、除雪用トラック、さっき説明では仕様変更等において、トラックについては７ｔから５ｔにという変更になった理由を言いましたけれども、もう少し詳細にホイルローダーは当初幾ら見込みで、予算額というんですか、予定額で幾らになったのか。仕様もどういふふうに変わったのかという部分の説明をお願いしたい。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 まず、ホイルローダーなんですけど、当初の予算額のほうからご説明いたします。予算額については、１,５００万円で計上しておりました。これが仕様の見直しによりまして、設計額の時点で１,１３９万３,０６２円になると。

仕様の見直しの部分なんですけど、大きな部分では、ブラウ、つまり除雪の排土板といいますけど、先に押していくものをマルチブラウということで、ちょっと丁寧に説明しますけれども、通常こういった形のラッセルの除雪機械があるんですね。あと逆にこういうユー型の中にためる除雪機、こういうふうな形の自由に前に後ろにできるものをマルチブラウと言うんですが、当初それで計上しておりました。そのマルチブラウというのは、あとはこういった形のアングリングブラウというんですけれども、そういうアングリング機能もあります。予算の要求時は、それで考えていたんですが、実際に発注時に私どもの実際の除雪をやる現業職員の意見を踏まえて詳細に検討した結果、マルチブラウはあれば便利なんですけれども、余り使用頻度が少ないという結論になりまして、あえて使用頻度が少ないものを高いお金をかけて購入するもの何だということで、アングリングブラウということで、こういった部分についてはぜひとも必

要という、そういう仕様に変えまして、結果的に安くなったということでございます。

あと、除雪用トラックについては、設計の予算額が２,０００万円、それに対して設計額、発注時の見直しの中で１,３６３万２,８２８円になったと。

これの大きな部分については、冒頭説明したように、除雪については、当然生活道路等については、狭い道も除雪の依頼がございます。できる限りそういった部分についても対応していくということで、コンパクトな機動性の高い機種に変えた、これも実際に除雪をやる現業職員等の意見を踏まえながら判断したという部分もあるわけなんです。そういう経緯で安価になったといえますか、低い価格になったということでございます。

櫻田委員長 鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 １,５００万から１,１００万ともう１台のほうで２,０００万から１,３００万、１,４００万弱ということで、現業のほうからその頻度という話なんですけれども、予算を出すときにそういったことまで入れた中で、意見を聞いた中で出さなかったのかというのは、当然出てくると思うんだけど、そこら辺のところはどういふふうに考えて。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 非常に厳しい意見で、今回のものについては、一つの反省材料として、今後の予算要求時には、十分実際に実務に携わる職員、これらの意見も十分踏まえて予算要求をしたいというふうな反省しているところでございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 じゃ、８ページの防災安全交付金事業の中の委託料、島方横２号線無名橋取り付け道路設計となっているんですが、当初予算でこれ工事費として４００万円計上されていたと思うんですね。

今回減額補正ということで、ここに計上されているわけですが、その内容を詳しく説明を願いたいと思います。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 当初工事請負費として計上してありましたのは、基本的に無名橋については、1級河川熊川の改修に基づいてつけかえるということで、県への負担金がメインでございます。その400万円というのは、その前後の河川改修に関係しないアプローチの部分、前後の取り付けの部分ということで、若干工事費的なものが発生するんじゃないかということで、当初見込んで予算計上しております。実際には、県との工程調整の結果、まだかけかえにも至らないという中で、今の段階ではまだ工事を発注する部分まで至っていないということで、今後必要なわけなんですけれども、今年度については落としたと、こういうことです。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 そうすると、確かに当初予算では県への事業費負担金ということで400万円の計上になっていたわけですね、今説明どおりだと思うんですが、今回そうすると、この取り付け道路設計費として載っていますよね。そこがどうして違うのかなと思うんですが。

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時47分

再開 午後 1時48分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 若干説明が誤った点がございました。当初の無名橋については……

〔「係長が説明して」「皆さん説明員なんだから、誰か説明して」と言う人あり〕

櫻田委員長 課長。

大木道路課長 今の吉成委員の質問なんです、当初見ていたのが、予算計上されていたのが島方横2号線の無名橋については、委託費の100万で、19節については負担金ということで……

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時49分

再開 午後 1時50分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

係長。

広瀬用地係長 島方横2号線に関しては、当初委託料と負担金という形で予算計上されていまして、委託料に関しては取り付け道路の設計の委託料という形で予算計上させていただいておりまして、残りは負担金を計上させていただいておりました。ということで、委託料は取り付け道路の委託料、負担金は県のほうの土質調査とかの橋梁の関係の委託を県のほうでかけていますので、そのアロケーションに関する負担金ということで予算計上させていただいております。今回の委託料の減額に関しては、そちらの委託料の入札差金ということで減額になっている部分の減額、それで入札で確定しておりますので、それに関する減額ということになります。

以上です。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 ちょっと私勘違いしていたんで、設計測量のほうのここに出てきている委託料は100万ということになる、もともとの当初は100万円だったということなわけですね。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

広瀬用地係長 それの……

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時51分

再開 午後 1時52分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 何回も大変申しわけありません。

まず、先ほど100万と言いましたのは、当初予算は委託料100万でありましたが、それをさきの9月補正で組み替えをさせていただきまして、これが1,500万になっております。今回、発注設計及び入札執行等でお金が確定しましたので、700万に今回12月補正で減額しているところでございます。700万減額して残金が800。あわせて19節負担金、これについては熊川改修に伴う県のほうがメインになって橋のかけかえをしますので、県のほうにお願いしてやっているとこの負担金なんです、こちらが当初予算では400万になっていました。これを9月補正で500万にふやした、100万増額したと。これについては、今後もこの予算額で執行したい。県のほうに負担金を支出したいということで考えております。

つまり、今回の12月補正では、13節、1,500万、19節負担金あわせて島方横2号線無名橋だけでい

きますと、2,000万予算があるわけなんです、それを700万減額しまして、最終的に1,300万にしたいということでございます。

冒頭、私のほうで取りつけ道路のと言ったのは、非常に申しわけなかったです。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木(伸)委員 同ページの上から2項目めですけれども、工事請負費、ときわが丘通り線なんですけれども、同様に二区町・緑線ですね。これの設計はいつ終わっていたものですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 二区町・緑線につきましては、設計については、一応一番最初事業着手する後に一番最初には測量をやって詳細設計という形になりますので、ちょっとお時間いただきます。

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時54分

再開 午後 1時55分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 まず、二区町・緑線については、平成25年に詳細設計をかけております。もう一つ、ときわが丘通り線については、これは舗装、改築といえますか、舗装なんで、こちらのほうについては直営で設計をしております。ですから詳細設計はかけてございません。

以上でございます。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。



鈴木（伸）委員 では、続いて、その下の公有財産購入費の土地購入費なんですけれども、これ減額ということなんですけれども、これの理由だけ教えていただけますか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 公有財産購入費については、井口966号線から湯街道2号線まで4路線ございます。

まず1路線ごとに説明しますと、井口966号線については、事業執行計画調整とあわせて、当初今年度用地取得を予定していました大きな地権者がいたわけなんですけれども、なかなか用地交渉がうまくいかないということで、他路線に振りかえている部分がございます。

続きまして、黒磯西岩崎線と石林東赤田線については、湯街道2号線が地権者といいますが、家屋所有者、物件補償の相手方から、やはりこちらでも早期の補償要求がございまして、こちらに振り分けなくちゃならないということで、こちらの土地購入費を落としまして、湯街道2号線の補償費へ組み替えて持っていったということでございます。

同じく、土地購入費の湯街道2号線、こちらのほうについても物件補償のほうに組み替えるために土地購入費を落とした、こういうことでございます。

以上でございます。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 用地交渉が難航しているとか、そういうことではなくて、応じているんだけど、補償費に回したいとか、そういう解釈でよろしいですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

大木道路課長 今おっしゃるとおりで、積極的に

協力するんで、早目に用地補償をしてほしいという強い声に応えたような形の組み替えでございます。

櫻田委員長 そのほかありますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩といたします。

休憩 午後 1時58分

再開 午後 2時00分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「省略」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は、原案のとおり可決すべきものとするに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

〔「何もございません」と言う人あり〕

櫻田委員長 委員の皆さんから何かございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 その他ないようですので、道路課の審査を終了いたします。

これで建設部の今定例会における審査は終了となりますが、建設部全体として何かございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 なければ、以上で建設部の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため、10分間休憩いたします。

休憩 午後 2時01分

再開 午後 2時11分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

農業委員会事務局の審査

櫻田委員長 初めに、佐藤事務局長からご挨拶をいただきたいと思います。

局長。

佐藤農業委員会事務局長（挨拶。）

櫻田委員長 ありがとうございます。

議案第86号の説明、質疑、討

論、採決

櫻田委員長 それでは、農業委員会事務局の審査に入ります。

議案第86号 那須塩原市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長（議案第86号について説明。）

櫻田委員長 それでは、説明が終わりました。

各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 先にちょっと委員長に確認してから質問しますが、ここまで質問していいかどうか分からないんですけれども、人数が逆にいうと38名から64名、単純にふえたんだと思うんですけれども、それから事務量がふえたのか、減ったのか、ちょっとはっきり分からないんですが、これによって市のほうから人件費等、事務運営費等の負担というのはふえるのか減るのか、同じなのか、その辺はいかがなものなのでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 実際に人数がふえるということですので、ある程度の費用負担はやむを得ないところであります。

また、農地利用最適化推進委員につきましては、非常勤の特別職ということで新たに設けますので、その辺の報酬の規定も今後条例のほうで制定して、ご審議いただくということになるかと思います。

また、この関係の費用につきましては、来年7

月からということで、来年３月の当初予算のほうで細かい数字になろうかと思うので、その辺の精査、積み上げを今しているところということでございます。

当然ながら農業委員の部分で18名減りますが、推進委員の部分で44名丸々ふえるということになりますので、倍とは言いませんが、ある程度の負担等にはなるのではないかとこのところで考えております。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 今回の定数、農業委員のほうお聞きしますけれども、選任が１人いるんで、実際に推薦であったり、それから募集であったりということが今後あるんでしょうから、その人数としては19人になるわけですね。

櫻田委員長 答弁を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 当然ながら、候補者の推薦、それから公募というところ、それから団体からの推薦等もありますけれども、那須塩原市として20人を置くということになりますので、市内の委員の方ということに限らず、住所要件がございませんので、20名の方を定員として候補者を募るというやり方になります。

また、加えますが、その辺の応募の方法とか、そういう部分については、今後また例規等で調整して、様式等々を制定していくという手続になるうかと思います。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 この定数を決めるに当たって、先ほど3分類があって、その中の那須塩原市は真ん中になって19名でという話があって、そこはわかるんですがけれども、基本的には定数に対して約半分ぐらいいは認定農業者を充てるべきというふうに農水

省のほうから出されていると思うんですね。そのほかに全く農業に関係ない非農業者、そういった方も選びなさい。あとこれまでも議会のほうからは女性の登用ということで上げてきましたけれども、女性、それから若者も農業委員にしないよというふうになっているんですね。その辺の検討というのはされたわけですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 吉成委員がおっしゃるように、当然今回の改正法の中でも女性委員並びに若年者の登用ということが義務に近いことの表現で出されております。これにつきましては、実際候補者をこれからということでやっていくということなものですから、実際にまだ設定は設けていないということですが、実際に女性団体のほうから女性の登用をお願いしますということで、口頭で来庁されまして要望されたという経緯もございます。

これにつきましては最低限、今議会から選任いただいております4名の方、これらの継続、それらも要望していきたいということで、当然ながら38名の方全員が残れば農業委員会の組織運営に本当にありがたいところではありますが、いずれにしても20名枠の中に、おっしゃられるように利害関係のない方を1名入れる、それで合計20名になるということもありますので、新たな視野で候補者を募るということもあります。この辺については、十分時間をかけてPR、周知させていただいて、最終的には適任者を市長が人事案件として出すということになりますので、その手続等々、着実に進めていきたいというふうに考えております。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 あと1点、確認したいんですが、農業

委員と推進委員と兼任しても構わないんでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 農業委員と推進委員と両方に応募はできるんですが、どちらかしか委嘱はできない、任命はできないということになります。そういう規定になっています。

櫻田委員長 そのほか何かありますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見等を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時25分

再開 午後 2時26分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第86号 那須塩原市農業委員会の委員及び農地利用最適化推進委員の定数を定める条例の制定については、原案のとおり可決すべきものとす

ることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第86号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

議案第90号の説明、質疑、討論、採決

櫻田委員長 次に、議案第90号 那須塩原市証人等の実費弁償に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 （議案第90号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見等を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時30分

再開 午後 2時31分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第90号 那須塩原市証人等の実費弁償に関する条例の一部改正については、原案のとおり可決すべきものとするに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第90号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

局長。

佐藤農業委員会事務局長 大変ありがとうございました。

今回、議案2つ、条例制定及び改正と提案させていただきましたが、今後も来年7月の改選期に向けてまだまだ法整備ですね、条例等また要綱等を詰めなければならないものもございます。先行する自治体もございますので、その動向を参考にしながら、事務を進めておりますが、随時、担当常任委員会委員の皆様方にご説明を行っていきたいと思いますので、引き続きよろしくどうぞお願いいたします。

櫻田委員長 委員の皆さんから何かございますか。  
吉成委員。

吉成委員 （推進委員の農業委員会会議への出席について）

櫻田委員長 ほかに委員の皆さんから何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 それでは、ないようですので、農業委員会事務局の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため、暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時34分

再開 午後 2時39分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

農務畜産課の審査

櫻田委員長 初めに、藤田産業観光部長からご挨拶をいただきたいと思います。

部長。

藤田産業観光部長 （挨拶。）

櫻田委員長 ありがとうございました。

議案第72号の説明、質疑、討

論、採決

櫻田委員長 それでは、農務畜産課の審査に入ります。

これより予算常任委員会（第三分科会）に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明をお願いいたします。

課長。

久利生農務畜産課長 （議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。各委員から質疑ご意見等をお受けいたします。何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 それでは、6ページの中山間地域活性化対策事業のアグリパル塩原、これ質疑でも出ましたけれども、アグリパル塩原会にということで、16棟の補助で今説明を課長からいただいた20坪から60坪ということなんですが、作付の作物はどんなものなのでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 こちらはあくまでの県のほうの追加要望ということで、アグリパルのほうで急遽手を挙げさせていただいたものでございますので、パイプハウスを実施するということが確定しておりますが、地元で生産可能なものということでございます。今後検討ということになります。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 ということは、その事業計画的なものは、出さなくてもいいということで補助金はあるということですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 こちらにつきましては、先ほど説明いたしましたけれども、条件としては地域の直売所、こちらのほうへの出荷が義務づけられておりますが、それから逸脱するようなものでなければ、対象になるということでございます。

櫻田委員長 吉成委員。

吉成委員 じゃ、確認でアグリパル塩原会には所

属している方々、幾つの農家があるんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 大変申しわけございません。こちらのアグリパル塩原会に参画している農業者数というご質問かと思えますけれども、申しわけございません。今手元に資料がございませんので、答弁は勘弁していただきたいと思います。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

山本委員。

山本委員 7ページのクラスター協議会に対する補助金のことなんですけれども、これ真ん中の計画変更額はとても大きいんですけれども、これをなくしたということなんです、2つの協議会にということのもう少し説明をお願いします。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 こちら2つの計画の変更があったということでございますが、2つの協議会につきましては、まず1つ目が日の出地区、失礼しました百村でございます。それと2つ目が瑞穂の2つでございますけれども、こちらは実は国のほうの補正予算がございまして、この場合に第2次補正ということになるわけでございますが、内容としまして、この畜産クラスター関連の事業については、事前の知らせとして、来年度、平成29年度の国のほうの予算要求がなされていないということがございます。今回の補正の中で、あらかじめ予定するものを表記しておいてくださいというような連絡が入りまして、それによって2つの協議会のほうで、事業を実施するということで、今回手を挙げさせていただいたものです。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 ちょっとよくわからなかったのですが、つまり来年度はないから、補正で先に出しますよ

という意味なんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 そのとおりでございます。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 それぞれ何をどうするのか、教えてください。何を増額して、何をするのか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

若目田畜産振興係長 増額なんですけれども、百村の里畜産クラスター協議会ということで、1つこれが事業費のほうで1億8,000万というものが変更のほうでは4億6,700万ということで増額しております。当初は堆肥舎1棟という予定だったんですが、それが不採択になったということで、2回目のほうについては、ユニバーサル農業、障害者雇用ですね、そういったものを入れたいということで堆肥舎1棟から牛舎1棟、面積のほうも牛舎が3,760㎡、搾乳舎768㎡、その他牛舎の附帯設備一式ということで、搾乳ロボットやパーラーですね、搾乳施設などがふえている結果となっております。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 今のは、百村の里の話なんですか、2つ聞いたんです。瑞穂はどうなっていますか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

係長。

若目田畜産振興係長 すみません、瑞穂農場なんですけれども、瑞穂農場の当初は肥育牛舎3棟及び附帯設備ということで、変更が予定になっていたんですけれども、肥育牛舎、3棟ということで変わらないんですが、そのほか附帯設備ということで、自動噴霧器とかそういったもので増額しているということで、当初が1億2,500万だったものが倍近くの2億7,800万近くになっているとい

うことです。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。何かございませんか。

君島委員。

君島委員 昨年度、平成26年度の大雪によります消費税相当額の返還金ということだったんですが、歳入と歳出の金額の違いが出ているというのは、どういうわけなんですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久利生農務畜産課長 歳入のほうで39万7,000円、歳出のほうで31万7,000円ということでございますが、その差額分8万円につきましては、市のほうで補助をしている分がございます。これは市のほうで受け取りまして、残った分を国等へ返還するというところでございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、質疑、ご意見を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時54分

再開 午後 2時55分

櫻田委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は、原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については、原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 その他に入ります。

執行部から何かございますか。

課長。

久利生農務畜産課長 （ミルクタウン戦略について、元気アップアグリプランについて、那須塩原市オリジナル乳製品の研究開発に関する発表会及び試食会について）

櫻田委員長 それでは、委員の皆さんから何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 （キスマイルに対する市民の受けとめ方について）

櫻田委員長 ほかにございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それでは、ないようですので、農務畜産課の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため、暫時休憩いたします。10分後に会議を再開いたします。

休憩 午後 3時01分

再開 午後 3時12分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

農林整備課の審査

櫻田委員長 それでは、農林整備課の審査に入ります。

これより予算常任委員会（第三分科会）に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明をお願いいたします。

課長。

久留生農林整備課長 （議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

それでは、各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。

何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 ちょっと今ごろ聞くの恥ずかしい部分もあるんですけども、7ページの1項7目の農村基盤整備事業、先ほどの話ですと農業用排水施設整備というふうに伺ったんですけども、農業用排水整備、この財源は3ページの21款の中の1項に載っている農業債ということになっていますけれども、農業債であっても財源は結局一般市民が払うことになるのかどうか。要するに農業用だから農業者が払う、その経営者の中だけで払うじゃなくて、一般市民の人も負担するような形になっているのかどうかということをお願



いします。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久留生農林整備課長 1,000万の事業がありまして、このうちの75%が国と県で、残り25%は農業債というのを財政のほうで組み込んでいるわけなんですけれども、財源ということになれば結局国民の税金ということに。

〔「市民の税金」と言う人あり〕

櫻田委員長 課長。

久留生農林整備課長 広く言えば市民の税金ということになります。

以上です。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 例えば道路とか、それから市民の体育館とか市民が一般的に使うものは当然建設債みたいな形で市民の税収から払うのは当たり前だと思うんですけれども、さっき言ったように農業用排水路、普通河川みたいなのだったら一般だと思うんですけれども、農業用というものを、要するに農業施設関係者が使うものを市が農業債という形で起債して、その返済は市が返済すると結果的には市民の税金になるんですけれども、一応そういう考え方でよろしいものなんですかということを確認したいだけなんですけれども。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久留生農林整備課長 そのとおりでございます。

櫻田委員長 そのほかに何かございますか。

〔「補足」と言う人あり〕

櫻田委員長 課長。

久留生農林整備課長 広くこちら上の原地区の農業用排水路といっても、個人のものというよりやはり地域全体としての農業生産性の向上であったり、広くその地区の雨水の排水ということもござ

いますので、地区に負担していただくばかりではなくて、広く市民の税金で支払うということでご理解いただければと思います。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

山本委員。

山本委員 歳入のほうの2ページなんですけれども、先ほど説明のときに国からのものが不採択になって県の補助の単独のと説明があったんですが、農業の補助金は国が不採択になるとみんな県に持ってくるということなんです。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久留生農林整備課長 そういうわけではないんですけれども、国の採択にならなかったということだと全て市の財源でやるという形になる場合もあるかと思いますが、今回県の単独事業という予算のほうがあると県のほうとの協議の中でそういう話があったものですから、少しでも市の負担を減らすという観点からも県の補助金の導入を図ったものでございます。

櫻田委員長 山本委員。

山本委員 そうすると、基本的なところがわかっていないのかもしれないんですけれども、農業のいろいろな事業をやるに当たって、市は補助金が国から出る出ない、あるいは県から出してもらえ出してもらえないということはまず置いておいて、これが必要だと決めてから補助金があるとか、採択になるとかというのを選んでこれを決めているということなんです。

櫻田委員長 答弁を求めます。

部長。

藤田産業観光部長 基本的には委員おっしゃるとおり必要な事業だから実施するんだというのが一番最初です。財源をどうしようかというのがその次に来る。事業費負担が余りにも大き過ぎるとい

う場合には、必要だというふうに判断をした事業であっても財政状況を勘案して取りやめるという場合もございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 それともう一つ、ちょっと単純な質問になると思いますけれども、3ページの21款市債の中に先ほど言った1項2目に農業債、それから1項7目に合併特例債で今の617の2001事業に充当とどちらも書いてあるんですけれども、その合計が今度7ページの支出のほうの合計2001事業と合わないのはどういうことなんでしょうか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

久留生農林整備課長 合併特例債の場合の充当率が95%で計算されているからその5%の分だけ合わないんじゃないかと思います。

以上です。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔「違う。これ結局……」と言う人あり〕

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時24分

再開 午後 3時31分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

答弁を求めます。

課長。

久留生農林整備課長 わかりにくい説明で申しわけございませんでした。

先ほどの県のほうに振りかえた部分で不足した分の30%を除く部分につきまして合併特例債を充てるということで、全体としての事業費のほうに

は変更はございません。

〔「質問の答えではない」と言う人あり〕

櫻田委員長 暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時32分

再開 午後 3時33分

櫻田委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

課長。

久留生農林整備課長 すみません、こちらの事業につきまして、国補事業を県単の事業に切りかえたということで財源の変更、合併特例債のほうに財源の変更をさせていただいたということでの事情でございます。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それでは、ないようですので、質疑、ご意見等を終了したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時34分

再開 午後 3時35分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結した

いと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は原案のとおり可決すべきものとすることに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 委員の皆さんから何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 じゃ、ここで進行を副委員長にかえます。

（委員長、副委員長と交代）

櫻田委員長 （執行部の答弁について）

齊藤副委員長 委員長に進行を戻します。

（副委員長、委員長と交代）

櫻田委員長 それでは、委員の皆さんからほかに何かございませんか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、農林整備課の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

執行部入れかえのため暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時37分

再開 午後 3時40分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

商工観光課の審査

櫻田委員長 それでは、商工観光課の審査に入ります。

これより予算常任委員会（第三分科会）に切りかえて審査をいたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）を議題といたします。

執行部の説明をお願いします。

課長。

八木沢商工観光課長 （議案第72号について説明。）

櫻田委員長 説明が終わりました。

各委員から質疑、ご意見等をお受けいたします。何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 答えにくいかもしれませんが、この予算を投じて得られる効果というのは、どのような形で見えてくることを期待していますか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

八木沢商工観光課長 効果といたしますか、これは観光のほうでしょうか。

鈴木（伸）委員 2つあるので、下の観光局プレDC対策。

八木沢商工観光課長 プレDC対策につきまして、観光局を中心に観光プロモーションを地元対

策ということで実施してございます。観光プロモーションのほうはもちろんＪＲの駅を通じてもしくは新聞、テレビ、雑誌等を通じてプロモーションしますけれども、当然お客様がいらっしゃる場合に地元の磨き上げもしていけないといけないということでもあります。

当然ＤＣだけではありません。ＤＣ以後も２回、３回リピーターとなって来ていただくために旅館、ホテル等もしくは飲食店等でこういったキャンペーンを行うことによりリピーターの確保について全体が振興していくということで、それらの活性化に向けた取り組みができるということで効果は期待しているというところでございます。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 今回８２０万という金額を予算しているわけですが、これを次年度またはその次という形で継続がないと、逆に言うとそれが板につくということがないのかもしれないんですが、１回だけでその効果が十分得られると思っているのか、今言った効果が今後もこういうことをしながら本当に観光客がリピーターがどんどんふえていくということを念頭に考えているのかということをお聞かせ願えますか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

審議監。

木下産業観光部政策審議監 デスティネーションキャンペーンそのものが、えてして単年度の３カ月間の集客人員を競うようなキャンペーンになりがちなんです。特に今県だとかＪＲさんも趣旨は違いつつも結果の総評を見ていると、毎回前年に比べて何％ふえましたとかという話になりがちなんですけれども、それはそれとして私どもとすると、２年、３年、４年、５年と続けていくための仕組みと、それからこういう商品が磨き上げの絶好の機会だというふうに考えているんです。

それから、もう一つは、ずっと申し上げてきているのは観光キャンペーンではなくて、まちづくり、町おこしのキャンペーンなんだということを早く理解してくださいということを申し上げているんです、農業、商業含めた。

ところが、なかなかまだその理解が、２０年ぶりのキャンペーンなものですから皆目見当がつかんというのがまちの感想だと思んですが、それを何とか打破するためにこういうキャンペーンを張りながら、エンドユーザー、つまり観光客に私ども那須塩原市が持っている素材を提供し、それをみんなで協力して磨き上げていくことによって他エリアとの差別化を図っていくというそのステップになる事業だと思っているんです。

ここで言っている話がどうかわかりませんが、年初の中できちっと措置ができていればもう少し長期的に、あるいは手の厚い、あるいは計画的なことができるような気がしますので、ぜひその方向に来年の本番のデスティネーションキャンペーンの際にはしていければと思っていますので、皆様のご理解を賜りたいと考えております。

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

副委員長。

齊藤副委員長 ちょっと中身だけ聞かせてください。

啓発用のフラッグのイメージがあればちょっとお聞きしたいんですけれども。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

八木沢商工観光課長 フラッグにつきましては、サッカーでよくプレーする前にチーム同士がこういうホームベース上のフラッグみたいなイメージのものが交換されると思うんですけれども、そういったものを店頭飾って、こちらがデスティネーションキャンペーン参加店といいますか、関係

していますよというようなイメージで掲げてもらうようなイメージをしています。

中身についてはまだデザインも含めてこれから検討という形であります。

櫻田委員長 副委員長。

齊藤副委員長 じゃ、のぼり旗ではなくて、そういう三角フラッグ形のものを差して迎えるというイメージでいいですか。

櫻田委員長 答弁を求めます。

課長。

八木沢商工観光課長 外に掲示すると景観条例の関係で色とかいろいろ制限があるということで、それに制限がない範囲で店頭にうまく飾ればというイメージを持っています。

齊藤副委員長 わかりました。

櫻田委員長 鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 補助金のほうで観光局運営、ブレＤＣ対策ということで、確かに表に向けた周知は当然ながらキャンペーンとして必要になるのであろう、ただ、そういう中でもやっぱり表の対策はそれはそれとして今度はやはり受け入れるという部分での対策も当然出てくると思うんですが、このブレＤＣ対策という中においては受け入れのほうの対策なんかも含めての金額というか、そういう計画があるのかどうかお尋ねしたいと思います。

櫻田委員長 答弁を求めます。

審議監。

木下産業観光部政策審議監 今たまたまここに例としてサンプル、イチゴとミルクと朝食日本一というのが実は内向き対策のほうがメインになっているんです。品質管理、おもてなしということをきちっとできるようになりましょうねということがメインでして、先ほど申し上げたようにデスティネーションキャンペーンそのものというのははき

っかけに過ぎないので、その後に続けられるようなことをということで提案してきている。

これが一つのきっかけになって朝食であったり、デザートであったり、そのほかのものであったり、結果として夕食や品質管理につながっていればということで考えておりますので、デスティネーションキャンペーン実は外に向いているんなことをやっていますけれども、同じボリューム以上に内に向けてやっているということもご理解をいただければと。内というのは旅館とか観光のみならず、商工会の皆さんだとか、あるいは農業関係の皆さんだとか、つまり観光というものを自分たちのビジネスの中でどう捉えてくれるんですかというようなことを投げかけていくキャンペーンであるというふうに考えていますが、なかなか理解のところまで行っていないのが少し残念ながらというところではありますが、時間をかけてやっていきたいと思っています。

櫻田委員長 鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 大変に意識改革という部分においては歯がゆい部分も多々あると思うんですけれども、しっかりと我々も応援していきたいとそのように思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

櫻田委員長 鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 単純なあれなんですけれども、これを見て思ったんですけれども、ここに飲み物とか何かイチゴのデザートみたいなのがあるんですけれども、これを１品、この補助金で漏れなくつけ加えるというようなそういう事業なんだろうかと、補助金について。

櫻田委員長 答弁を求めます。

審議監。

木下産業観光部政策審議監 そうすると、どうしてもつくる側がお仕着せになっちゃいますので、

製作そのものには一番とにかく知恵と工夫とセンスで取り組んでくださいと、お金で取り組まなくていいんですよ。それを外に向かって、要はデスティネーションキャンペーンというのは一番のメリットは県とＪＲがお金を使って大々的に全国に栃木県を知らしめるポスターやチラシを配布したり、そういうのがただでできますので、その合間に我々はこのまちならではのポスターや温泉のパンフレットやポスターを張りながらもさらに特化した食事とか、というのは実は今ＤＣなんかでも県がほとんど温泉地とか観光じゃなくて、イチゴを使うんです。ちょっと僕らからすると観光物産協会であるゆえんかもしらんですけれども、観光誘致よりもどちらかというと物産ＰＲのほうが主体になっちゃう。だとすれば、それに便乗しないまでも、こういう中でもイチゴとかミルクというのはこの町の独特なものですよというようなことを間隙を縫ってやっちゃおうと思っているんです。

今ここには写真がこの程度しか載っていませんけれども、今50カ所近くの協賛してくれている旅館、それから飲食店からいろんな商品を自分たちでアレンジしたものの写真が届いています。それを使ったポスターやパンフレットをつくっていくことによってもう少し見ばえのいいものにはなってくると思うんですけれども、１品をこちらが提供してというところはちょっと今の段階では考えていないです。各ところが考えてやっていく、旅館によってはデザートで使うところもあれば、販売をするところもあればいろんな、何しろイチゴと牛乳というものをしっかりと根づかせたいという趣旨でございます。

櫻田委員長 進行をここで副委員長に替わります。

（委員長、副委員長と交代）

齊藤副委員長 委員長。

櫻田委員長 いつも言うんですけども、確かに意気込みはすばらしい。物理的に４月から６月の間のイチゴ、例えばなつおとめにはちょっと早いし、これから１２月最盛期を迎えるイチゴは非常に高価で、だけれども、スカイベリーもとれる、何もとれるという感じなんですけれども、今、審議監が言ったようにセンス、センスをせっかくお金を使うのにどのぐらい受け入れ先に周知できるかということ考えていますか。

〔「受け入れ先」と言う人あり〕

櫻田委員長 受け入れ態勢側の。

齊藤副委員長 審議監。

木下産業観光部政策審議監 ハードルを高くすれば、例えばもともと地元産でやろうという話になっていたんです。それをすればするほど参画施設がどんどん減っていくという、ほかのものもそうなんですけれども、ギャップが非常にあって、実は今のケーキ屋さんや飲食店でもイチゴとミルクを使ったものをどんどんつくっているんです。それをまず集約しようということから、まず間口を広くしてだんだんにやっていこうと。

もう一つは、４月、６月とデスティネーションキャンペーンの期間が残念ながら決まっちゃっていますので、イチゴの端境期とぶつかることは確かにあるんです。そのときに季節によっては４月から５月までしかうちは提供できないというところもあるでしょう。６月までやるところには冷凍物を使うところもあるでしょう、それはとりあえずよしとして、各施設ごとのメニューの中にうちはこういうスタンスですよというところは明記しようということで、まず間口を広げるというところから入っています。その後にだんだんブラッシュアップしていくという多分そういうスタイルになっていかざるを得ないのかなという感じなんです。

理想で行くと地元産を使って、牛乳、イチゴを使おうじゃないかということになると、多分4月1カ月ぐらいの商品になってしまうとJRさんの取り上げ方もトーンダウンしますし、マーケットからもやっぱり支持をされないということがあるので、苦しい選択ではありましたが、まずとりあえず間口を広くしていくということ、参画施設が今50近く集まっていますので、かなりなボリュームのものができたらと思うてはいます。齊藤副委員長 委員長。

櫻田委員長 十分その取り組みはわかるんですけど、やっぱりセンスというのが一番大事で、観光局が中心になっても観光局にはセンスのいい人ももちろんいると思うんですけど、審議監初め、そういったところの浸透の仕方、僕一番心配しているのはやることはやぶさかではないですけども、この市は何せやりっぱなし。

この間も言ったんですけども、チャレンジング那須塩原のブランドメッセージもしかり、巻狩くんはどこに行っちゃんだらう、認定ブランドの16からふえたけれども、どうなっているんだらうとか本当に難癖つけるわけじゃないですけども、せめてそういうふうな形になってもらいたくないんです。

これ言うように本当にうまくいけばえらいほどの内需拡大が生まれるわけですから、それとやっぱり牛乳なんかも一応公認されている牛乳は7種類です。のべつ幕なくあるわけじゃないので、そういったところの特性もやっぱり十分に生かしながらやっぱり低温殺菌の牛乳はスイーツにした場合とか組み合わせによってはすごく生きるのもあるし、この地はジャージーはなかったとは思いますが、かなり高価な牛乳もあるので、そういうところのしっかりした磨き上げはそちらだと思うんですけども、使い勝手のほうで例えばと

て焼きなんかもそうなんですけれども、これとやっぱりいまいちなんだ。

いまいちで売り続けるのか、これ本当に何というかしっかり行政ができる範囲のプロデュースとかコーディネーターをどのくらいまでやるか。朝食もそうなんだけれども、いつも言うけれども、その本気度が知りたいんです。

金幾らでも出したいです、だけれども、今そこがギャップになっていると思うんです。それは観光局でやっている効果と受け入れ態勢の効果が多分数値に出てこない。だけれども、数値を追っていくとやばな話になるので、その辺のやっぱり観光局の最後に役割、聞かせてもらえれば。

齊藤副委員長 審議監。

木下産業観光部政策審議監 最後は誰が得するんだという話だと僕は思っているんです。受け入れ側の彼らが生きていくために何が必要なのよという話を僕はここで持ち出しているわけです。

つまり、今ずっと話しているんですけども、50年、100年後に残せる塩原温泉、板室温泉をどうつくっていくんだと。何を問われるかということ、値段でもうまい料理でもなんでもない、実は哲学なんです。おれたちはこうやって生きていくんだ、あるいはこうやってお客さんに来ていただくんだという哲学があるかないかなんです。その入り口がこういうものだと僕は考えています。

それが話してすぐわかる経営者もいます。数は少ないにしても何人かいます。それから、やっているうちにわかってくる経営者もいるでしょう。それから、ずっとわからない経営者もいるだろうと思うんです。それを全部すくい上げることは多分不可能だと思っているんです。

1年前に気づけばいい、2年前に気づけばいい、そのスタンスで続けていくことが重要だろうと思っています。

いつも多分委員長おっしゃったように中途半端で終わっているのはなぜかと言うと、いきなり100%の完成品をみんなに求めるからだ。余りにも手の高い目標を掲げてしまっただけは誰もついてこれないと、そうするとこの辺の妥協で適当にやっておけばいいや、そのうちに抜けていくよということになるんだろうと思うんです。

そうすると、やっぱり今回僕らもいろんな試行錯誤の中で旅館の連中とも話しながらも間口広くしよう、今まで観光になんか関係なかったと思っている飲食店の皆さんにも入ってもらおうじゃないかというようなことでやると、やっぱり間口を広くして、そのかわりやっぱりやったらこんなにいいパンフレットで、こんないいポスターができて俺たちもっといいもの出さないとまずいというようにしていくのが多分一番早い道だろうということで話が折り合ったというところなんです。

続けていけるかいけないか、これは多分予算の問題じゃないかと思っているんですけれども、お金がかかる話じゃないんだから。

さっきおっしゃったようにセンス、あるいは哲学、必要とする、これがどれくらい重要なものかということを理解できるやっぱりビジネスセンスというんですか、その辺を求めていきたいなと思っているので、無責任な言い方をしますが、成功するかしないかはやる人たちの本気度に係ってくるんだろうと、その本気度の話はします、するけれども、くみ取る人は誰なのよというところを僕らは追及もしていかなくちゃいけないし、それも観光局の大きな役割の一つだろうと僕は思っています。

決してこびません僕らは、僕らといっても僕しかいないんですけれども、こびないで、ただこれをやらなければ生きていけないよというところでやっぱり理解を得ていくしかないんだろうなと、

それぐらい切羽詰まって実はきているんだろうと思っています。

今回はこのデスティネーションキャンペーンを逃したら、多分二度とこのまちの観光が浮き上がるチャンスは来ないだろうと思っているんです。それぐらいやっぱり本気度を持って接していますよということです。

ところが、残念ながら商工会でいろんな話をしました、それから組織の中でもいろんな話をしましたが、その本気度をくみ取れる人は残念ながらほとんどいないのが現状なので、余り木下1人に任せないで、ぜひ皆さんも一緒になって本気度を上げていただければと思っています。

齊藤副委員長 進行を委員長に戻します。

(副委員長、委員長と交代)

櫻田委員長 そのほか皆さん何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 それでは、ないようですので、質疑、意見等を終了したいと思います、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、質疑を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午後 4時03分

再開 午後 4時05分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

これより討論を行います。

討論はございませんか。

〔「なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結した



いと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め、討論を終結いたします。

これより採決いたします。

議案第72号 平成28年度那須塩原市一般会計補正予算（第6号）は原案のとおり可決すべきものとするに異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 議案第72号については原案のとおり可決すべきものと決しました。

その他

櫻田委員長 それでは、その他に入ります。

執行部から何かございますか。

課長。

八木沢商工観光課長 （観光局における任期付職員の採用について、平成28年度的那須塩原ブランド認定について）

櫻田委員長 そのほか何かございますか。

〔「そのほかはございません」と言う人あり〕

櫻田委員長 委員の皆さんから何かございますか。

〔「ありません」と言う人あり〕

櫻田委員長 すみません、ここで進行を副委員長にかわります。

（委員長、副委員長と交代）

齊藤副委員長 委員長。

櫻田委員長 （本市の観光の振興について、ことの温泉100選について）

齊藤副委員長 委員長に進行を戻します。

（副委員長、委員長と交代）

櫻田委員長 それでは、その他はないようですの

で、商工観光課の審査を終了いたします。

これで産業観光部の今定例会における審査は終了となりますが、産業観光部全体として何かございますか。

課長。

久利生農務畜産課長 先ほど、農務畜産課のほうの12月補正の審議をいただいた中で、アグリパル塩原会の参加人数を吉成委員のほうから質疑をいただきました。その人数についてご報告申し上げます。会の構成人数といたしましては132名でございます。132名が平成28年4月1日現在の人数でございます。

以上でございます。

櫻田委員長 部長、ないですか、何か。大丈夫ですか。

〔「じゃ、よろしいですか」と言う人あり〕

櫻田委員長 部長。

藤田産業観光部長 産業観光部3課にわたりまして、付託議案のほかにもいろいろなお話をいただきましてありがとうございました。

それぞれお話をさせていただいたとおり、認定市の事業、それから研究の発表とあわせてそれぞれ試食会を行いますので、ぜひお時間があれば委員の皆様には実際に試食をしていただければというふうに思います。

それから、今報道で大分あちこち鳥インフルエンザというようなところで心配がされておりますが、栃木県においても全く関係ないということではございません。県と連携して万が一の事態に備えて今準備はしている。準備をしていると言ってもじゃ、何をやっているんだという連絡体制であるとか、万が一起きたときにはどうするんだというような連携ですとか、そんなことを今やっているという状況がございます。

それから、ＤＣについても委員長からも相当、叱咤激励をいただきましたが、やはり審議監が言うとおり当然きっちり外に向けては手を振っていくけれども、成功は中をしっかりと盛り上げることにある。その盛り上げる中も庁内とかということじゃなくて、まず事業者、それ向けのために今回の仕掛けも実は外向けのようなキャンペーン商品に見えますが、それをつくる過程で中がどれだけ変わるかというようなつくりになっております。

先ほど申し上げましたフラッグ等についても市が直営でやるような形で予算組みをしておりますが、これも市の職員がフラッグをつくって張ってくるといってじゃなくて、商工会を巻き込みながら商工会にその部分をしっかり委託をしながら、ＤＣがこれから始まるんだよというものを盛り上げていこうというようなことでやっていますので、引き続き委員の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

櫻田委員長 それでは、以上で産業観光部の審査を終了いたします。

お疲れさまでした。

ここで執行部入れかえのため暫時休憩といたします。

休憩 午後 ４時２２分

再開 午後 ４時２５分

櫻田委員長 それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

その他

櫻田委員長 今回、生活環境部における審査事項

はございませんが、ここでその他として生活環境部環境対策課より報告があります。執行部の入室を認め、報告を求めます。

部長。

山田生活環境部長 それでは、那須塩原の鍋掛にあります瑞穂農場という農場からの悪臭、騒音に係る要望について、地元長久保自治会長ほか18名の方からいただいた要望書の処理経過についてご報告させていただきます。

詳しくはこのあと課長のほうから、よろしくお願いいたします。

櫻田委員長 課長。

相馬環境対策課長 （瑞穂農場に係る長久保自治会からの要望書の処理経過について）

櫻田委員長 ありがとうございます。

それでは、その他を終了いたします。

執行部の皆さん、ご苦労さまでした。

それでは、ここで事務局より事務連絡をいたします。

磯書記 （事務連絡。）

散会の宣告

櫻田委員長 それでは、これで本日予定しておりました審査事項は終了しました。

委員の皆さん、お疲れさまでした。明日は９時４５分より協議会、その後現地調査の上、委員会を再開いたしますので、どうかよろしくお願いしたいと思います。

以上で本日の建設経済常任委員会を散会いたします。

お疲れさまでした。

散会 午後 ４時３９分

## 建設経済常任委員会及び予算常任委員会（第三分科会）

平成28年12月8日（木曜日）午前10時45分開議

出席委員（8名）

委員長 櫻田 貴久  
委員 鈴木 伸彦  
委員 君島 一郎  
委員 山本 はるひ

副委員長 齊藤 誠之  
委員 鈴木 紀  
委員 吉成 伸一  
委員 玉野 宏

欠席委員（なし）

紹介議員（なし）

出席議会事務局職員

書記 磯 昭 弘

議事日程

1. 開 議

2. 審査事項

【請願・陳情審査】

・請願第 2号 危険道路改善に関する請願書

・陳情第 2号 「森林・林業基本計画」の推進を求める陳情

3. その他

4. 閉 会

開議 午前 10 時 45 分

#### 開議の宣告

櫻田委員長 それでは、散会前に引き続き会議を始めます。

それでは、ただいまから請願の審査に入ります。

#### 請願第 2 号の審査

櫻田委員長 請願第 2 号 危険道路改善に関する請願書を議題といたします。

概要の説明については、先ほど協議会において決定のとおり省略をいたします。

それでは、各委員の意見をお受けいたします。

何かございますか。

鈴木紀委員。

鈴木（紀）委員 先ほど説明の中で、条例の関係の話がありました。第 3 種 5 級ということで、1 車線でも供用可能であろうということでは現状でも対応可能というような説明がありました。それと、もう一つはやはり、通学路の指定がなされていないということと、先ほどに戻りますけれども、条例からいくと通行車が 500 台、それ未満の 450 台ということであります。また、ざっくりではありますが、予算が 10m 幅で 2.5m ぐらいの歩道もつくるといようなことを聞きました。総額でざっくりですが、1 億 5,000 万ということを見ると、やはりこれはちょっといかがなもののかなというような私は結論です。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

君島委員。

君島委員 ただ、請願で出されている部分につきましては、歩道の設置とかそういうものはうたてはおりません。ただ、市のほうへ出してある要

望については出ているのかどうかはわかりませんが、けれども、請願に関しては出ておりませんので、危険箇所の回避という部分で、それから道路の幅員、こういったものについても拡幅というだけで 7m までもってくれとは、何車線にしてくれというものは請願の中にはありませんので、請願そのものとしては採択をしてもいいのではないかなと思います。

それから、執行部のほうで説明しているのは、執行部に対しての要望に対してこうだろうということでの説明になってきますが、議会のほうへ出されている請願についてはそこまでのことはうたていないので、請願のほうは採択してもいいのかなというふうな感じに思っております。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

山本委員。

山本委員 私は採択する必要はないというふうに感じました。ここだけ読んでいたときには、そういうふうな危険なところなのかなというふうに思っていたのですが、現場を見てということと、あとは現地で説明を受けた結果、それから、今、君島委員はそこまでは言っていないとは申しましたが、建設道路のほうとしては、多分つくのならそういうふうな、いろんな関係でなるんだということを考えますと、もっと危険なところがあるし、議会のほうへ請願を採択するというほどの道路ではないのではないかなというふうに感じました。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

鈴木伸彦委員。

鈴木（伸）委員 私も、この件に関しては採択はできないんじゃないかと。理由としては、条例がありますし、那須塩原市、広いですから、ここが採択となれば、やっぱり議員、要するに行政とか建設課も動かざるを得なくなるだろうと。そんな

ると、この広い那須塩原市で、これよりももしかすると交通量もあって、要望したいと思っている地域もたくさんあると思いますけれども、それに対して、条例に従わないでやると混乱が生じるような事態も予想できますので、今回の数字だけ、数字だけ見ましても、条例に従って粛々とやっていただきたいなということで、今回は見送りということを考えたいと思います。としたほうが今はよろしいかと思います。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 佐藤一則議員の、先ほど説明を受けた中で、通学路としてのかなり需要がある道路のかなという印象を受けたんですが、先ほど道路課の説明の中、また、調査の結果からいっても、余り通学路として実際には、指定は受けていないにしても、それでも使われているとなれば別だと思わうんですが、通学路としては使われていないと。

今、全国的にも通学路が非常に問題になっているという現状があると思うんですね。それを考えた場合には、やっぱり市内の中で通学路に指定されいながら危険箇所というのも当然存在しているわけですから、そういった歩道整備に近い事業に実際には市としては力を入れていただきたいということを考えると、当初私もこの請願は採択でいいのかなという感じがしていましたけれども、説明と、それから状況等を判断して、今回は見合わせてもいいのかなという気がします。

櫻田委員長 ほかに何かございますか。

玉野委員。

玉野委員 この紫の部分というのは、そもそも昔からあった道で、ここが狭いというより工業団地のほうの周辺が広がったということで、狭い、広いというのが出たと思うんですね。それと、また、ここを使う人たちは目的が割と特定された人

たちが使うのかなと思うんです。それと、通学路というのも、この先学校へ行く方向のほうに通学路がないという状態で、やっぱりここを採択するということは必要ないと思います。

櫻田委員長 そのほかになにかございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので討論を行います。

討論はございませんか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思いますが、異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め討論を終結し、これより採決をいたします。

まずは、本件を採択すべきものとするほうからお諮りをいたします。

請願第2号 危険道路改善に関する請願書について、採択すべきものとするに賛成する委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

櫻田委員長 賛成が過半数を満たしていませんので、請願第2号 危険道路改善に関する請願について不採択とすべきものとするに賛成する委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

櫻田委員長 賛成過半数と認め、よって、請願第2号は不採択とすべきものとするに決しました。

以上で請願第2号の審査を終了いたします。

ここで暫時休憩いたします。

休憩 午前10時54分

再開 午前10時55分

陳情第2号の審査

櫻田委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。

それでは、ただいまから陳情の審査に入ります。

陳情第2号 「森林・林業基本計画」の推進を求める陳情を議題といたします。

概要の説明については先ほどの協議会において決定のとおり省略をいたします。

それでは、各委員の意見をお受けいたします。

何かございますか。

君島委員。

君島委員 私、この陳情につきまして、趣旨については十分理解するところではあるんですが、この陳情者につきましては、栃木地域森林労連という形から出ておりまして、この労働組合そのものが林野庁の関係するところの労働組合であります。

そういう形のところ、実際に国の施策等に携わるところの職員でつくる労働組合から市町村、地方のほうに陳情してくれという形で出されてきた趣旨をもう少し調査をしたい。

それと、記の部分の最初に入っておりますとおり、平成29年度概算要求で計上された予算の確保を図るようということを書かれておりますけれども、概算要求がどのようなものがされているのか。これらについてもまだまだ調べる必要があると思いますので、私のほうとしましては継続審査をお願いをしたいというふうに思っております。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

吉成委員。

吉成委員 結論から言って、私も君島一郎議員と同じように継続でいいのかなと思います。

1つは、本来こういう陳情であれば、各地域に森林組合があるわけです。そういう森林組合の方々にも諮って、ここが今回出している労連のほ

うが中心になっても構わないとは思いますが、そういった各森林組合の意向も踏まえて、両者でこういった陳情が出てくるということであれば違和感はないと思うんですが、先ほど君島一郎議員のとおりだと、その部分は思います。

それともう一点、記の1の森林環境税、これは仮称で、まだ当然導入はされていないわけですね。これらについてもしっかりと議論があって、国のほうもそういう方向だというのが見えてきた中でここに記されているのであれば理解はしやすいんですけども、ここの部分にも多少、現実的にもうちょっと調べないとわからないなという気がしますので、継続でいいと思います。

櫻田委員長 そのほか、何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、これから討論を行います。

討論はございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、討論を終結したいと思います。異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

櫻田委員長 異議がないものと認め討論を終結し、これより採決をいたします。

先ほど、継続審査の意見がございました。

まずは、本件を継続審査とするかどうかをお諮りいたします。

陳情第2号 「森林・林業基本計画」の推進を求める陳情について、継続審査とすることに賛成する委員の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

櫻田委員長 賛成過半数と認め、よって、陳情第2号は継続審査とすることに決定をいたしました。

以上で陳情第2号の審査を終了いたします。

その他

櫻田委員長 それでは、次第４その他に入りますが、委員の皆さんから何かございますか。

〔発言する人なし〕

櫻田委員長 ないようですので、事務局から何かございますか。

事務局。

磯書記 （事務連絡。）

櫻田委員長 それでは次第４のその他を終了します。

以上で今定例会における当委員会の議事日程は全て終了いたしました。

本委員会の審査報告書は、本職が作成し、議長に提出いたしますのでご一任くださるようお願いいたします。

閉会の宣告

櫻田委員長 それではこれもちまして、建設経済常任委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午前１１時０３分

## 建設経済常任委員会

平成28年12月9日(金曜日)午前10時00分開議

### 出席委員(8名)

委員長 櫻田 貴久  
委員 鈴木 伸彦  
委員 君島 一郎  
委員 山本 はるひ

副委員長 齊藤 誠之  
委員 鈴木 紀  
委員 吉成 伸一  
委員 玉野 宏

### 欠席委員(なし)

### 紹介議員(なし)

### 説明のための出席者

上下水道部長 邊 見 修 水道課長 釣 巻 正 己

### 出席議会事務局職員

書記 磯 昭 弘

### 議事日程

1. 開 議
2. 発言の訂正
5. 閉 会



開議 午前 10 時 00 分

開議の宣告

櫻田委員長 それでは皆さん、おはようございます。

昨日、委員会を閉会したところではございますが、上下水道部水道課より発言の訂正の申し出がございましたので、これを認め、会議を再開いたします。

発言の訂正

櫻田委員長 それでは、部長の発言を許します。

部長。

邊見上下水道部長 皆さんおはようございます。

大変お忙しい中、貴重な時間をいただきまして、まことに申しわけございません。

一昨日ご審議いただきました水道設置条例の一部改正のところで、ご答弁を申し上げました内容について誤りがございましたので、後ほど課長からご説明を申し上げますが、よろしくお願いしたいと存じます。

よろしくお願いいたします。

櫻田委員長 それでは、説明を求めます。

課長。

釣巻水道課長 一昨日の建設経済常任委員会で審議いただきました那須塩原市水道事業の設置に関する条例の一部改正の質疑の中で、新湯地区の一日最大給水量につきまして、 $31\text{m}^3$ というふうにお答えを申し上げましたが、正しくは $77\text{m}^3$ でございます。訂正をお願いしたいと存じます。

大変申しわけございませんでした。

閉会の宣告

櫻田委員長 それでは、以上で建設経済常任委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

閉会 午前 10 時 02 分